



古膳所耳付茶入



信楽焼矢筈口水指



古膳所大江水指



古膳所末広水指



梅林焼貝殻鉢



信楽焼茶碗瀧川



復興膳所焼楽茶碗



展示室2階



展示室1階



お茶室

膳所焼とは 大名が興し、 庶民が受け継いだ膳所焼

膳所焼は、小堀遠州の教えを受けた膳所藩主
菅沼定芳（一六二〇〜一六三四年在任）が、現在の
相模川河口に窯を開いたのが始まりと言われてい
ます。

菅沼定芳転封後の藩主石川忠総の時代につ
けて、小堀遠州の支援を受けた膳所焼は將軍徳川家
光への献茶に用いられるなど、茶器として天下にそ
の名が知られることになりました。その後一時衰退
した膳所焼は、天明年間、小田原屋伊兵衛が起こ
した梅林焼、文政年間に井上幾右衛門が開窯した
雀が谷焼などを経たのち、大正八年（一九一九年）、
岩崎健三が日本画家山元春挙や京焼の名工二代
伊東陶山の協力を得ながら膳所焼を復興し、その
子岩崎新定によって、継承され発展してきました。

当館には、古膳所焼の水指、茶入を始め滋賀県
内の焼物や復興膳所焼、茶道具の棗や軸などを展
示しておりますので、露地庭を見ながらいただく
お抹茶とともにごゆっくりお楽しみください。

膳所焼美術館館長



広間での小学生茶の湯教室